

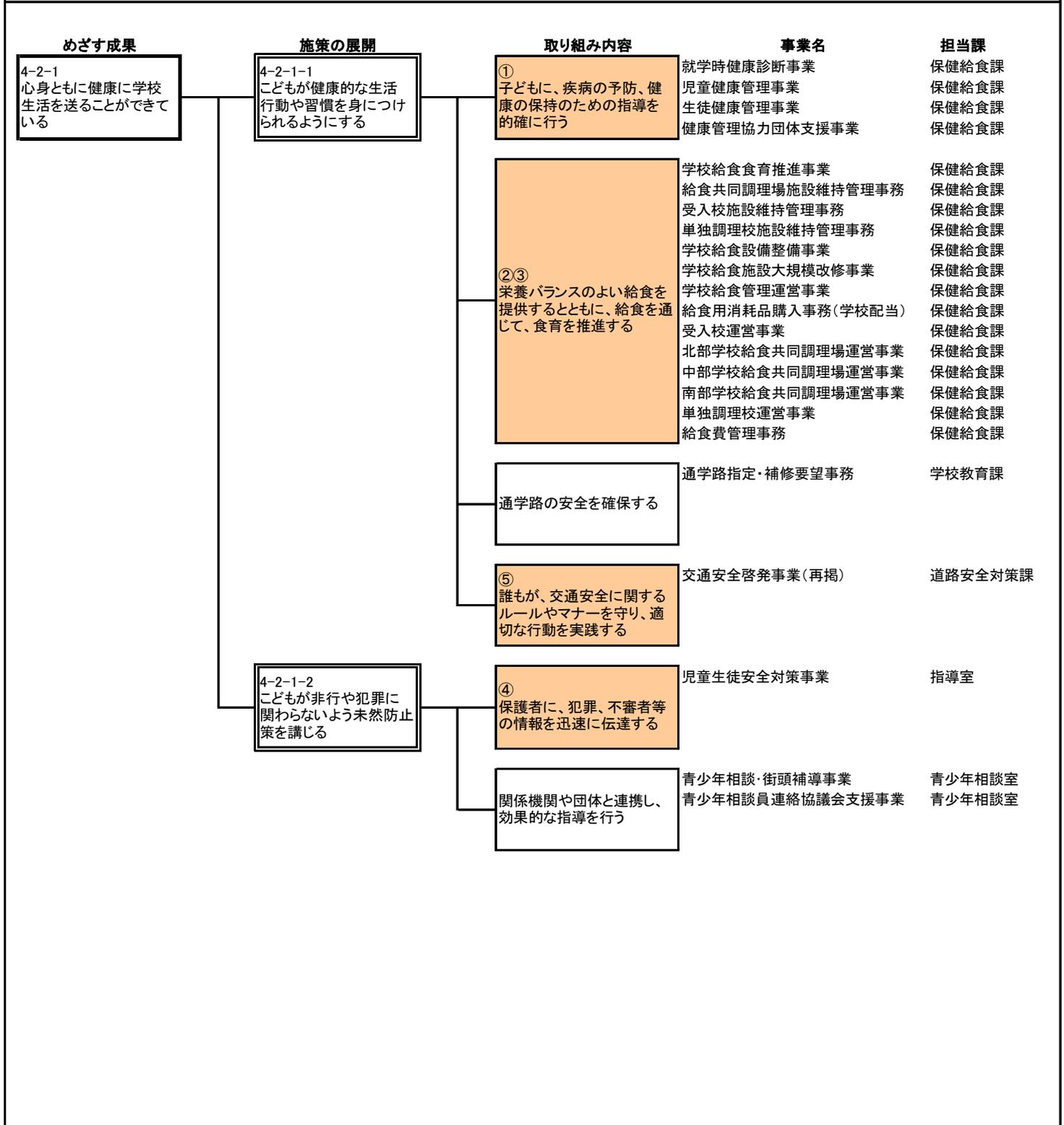
施策評価（一次評価）

個別目標 4 - 2

令和4年度施策評価（一次評価）

健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4-2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む
めざす成果	4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができている	
	4-2-2	多様性を尊重し他者ととともに生きるための社会性が育っている
	4-2-3	こどもが豊かな感性を身につけている

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）



(単位：千円)

◎所管部長：教育部長 前田 剛司
街づくり施設部長 財津 保真

総事業費 (予算)	H31(R1) 1,080,008	R2 1,311,230	R3 1,171,337	R4 1,144,334
--------------	----------------------	-----------------	-----------------	-----------------

成果を計る主な指標	前期基本計画期間 (R1～R5年度)						
	計画当初値	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	中間目標値 (R3)	最終目標値 (R5)	
① 健康であるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合	(小4～6)	95.9%	92.4%	98.6%	98.8%	98.0%	100.0%
	(中1～3)	95.0%	91.9%	98.6%	98.4%	98.0%	100.0%
② 小学校の給食残食率(野菜)	10%	11%	11%	12%	8.7%	8.0%	
③ 給食における地産地消の割合	20.2%	16.7%	15.6%	17.8%	24.0%	26.0%	
④ 学校PSメール世帯普及率	89.9%	93.0%	97.6%	99.1%	93.0%	95.0%	
⑤ 子どもの交通事故の市内発生件数	73件	64件	44件	58件	66件	62件	

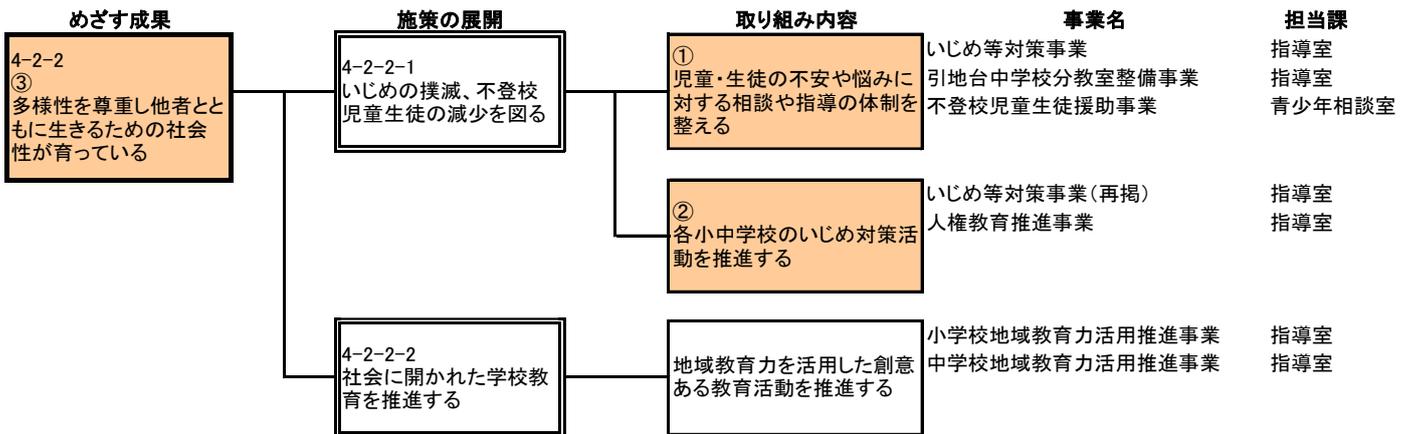
これまでの成果	<p>【こどもが健康的な生活行動や習慣を身につけられるようにする】</p> <p>■①給食の味覚体験、食育講座、パネル・調理機器の展示による学校給食展、②夏休み親子料理教室、③給食に関する講座、調理実習、施設めぐりなどを行う学校給食講習会を実施し、食育の普及啓発を行うことができました。(令和元年度に実施。令和2、3年度はコロナ禍における感染症対策として実施を見送りました。)</p> <p><実績></p> <p>①学校給食展(R1年7月実施)：来場者数 1,452人</p> <p>②夏休み親子料理教室(R1年7月に2日間実施)：参加者数 45組(94人)</p> <p>③学校給食講習会(R1年7～12月に5日間コースで実施)：参加者数28人(各小・中学校PTA代表1人参加)</p> <p>■学校給食施設の老朽化に対応するため、大規模な施設改修を計画的に進めており、南部調理場については令和2年度から2カ年事業として安全で衛生的な環境となるよう改修を行いました。</p> <p>■以上のような取り組みとともに、児童生徒を対象として安全安心で栄養バランスのとれた給食を提供し、併せて給食を通じた食育を推進することで、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけることに寄与できました。</p> <p>■子どもの交通事故の市内発生件数について、令和元年度から2年度へは減少、令和2年度から3年度へは増加となりましたが、いずれの年度においても中間目標値の66件以下に抑えることができました。また、昭和34年の市制施行以来、初めて交通事故死者数が0人となりました。</p>
	<p>【こどもが非行や犯罪に関わらないよう未然防止策を講じる】</p> <p>■メール配信システム(学校PSメール)を利用して、迅速に犯罪、不審者、自然災害等の情報を伝達することにより、児童・生徒の安全性向上に寄与しました。また、市内小学校の新1年生に防犯ブザーを配布することにより、通学児童の安全性向上に寄与しました。</p>

成果に対する評価と課題	<p>【こどもが健康的な生活行動や習慣を身につけられるようにする】</p> <p>■栄養バランスのとれた安全な給食の提供を通して児童生徒の健康増進と日常生活における正しい食習慣の定着化を図ったことで、一人ひとりが健康づくりに取り組み、元気に暮らすための基礎づくりにつながったものと考えます。</p> <p>■子どもの交通事故の市内発生件数に関連し、令和3年に交通事故死者数0人を達成するなどの成果については、幼児・児童用自転車ヘルメット購入助成、賠償責任保険付き自転車運転免許証の交付などの児童の交通安全意識向上の取り組みが一助になっているものと捉えます。</p>
	<p>【こどもが非行や犯罪に関わらないよう未然防止策を講じる】</p> <p>■メール配信システムの運用にあたっては、個人情報等のセキュリティ管理の徹底及びシステム障害への対策が課題であり、引き続き適切な運用方法を検討する必要があります。また、防犯ブザーについては、児童の保有率の維持・向上のために継続的に配布するとともに効果的な使用方法のより一層の周知も必要です。</p>

令和4年度施策評価（一次評価）

健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4-2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む
めざす成果	4-2-1	心身ともに健康に学校生活を送ることができる
	4-2-2	多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている
	4-2-3	こどもが豊かな感性を身につけている

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）



(単位：千円)

◎所管部長：教育部長 前田 剛司

総事業費 (予算)	H31(R1) 45,802	R2 51,305	R3 48,989	R4 68,658
--------------	-------------------	--------------	--------------	--------------

成果を計る主な指標			前期基本計画期間 (R1～R5年度)					
			計画当初値	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	中間目標値 (R3)	最終目標値 (R5)
①	いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	(小)	46.4%	48.2%	47.1%	39.1%	49.2%	50.6%
		(中)	39.5%	36.4%	34.7%	38.0%	44.7%	47.3%
②	いじめ問題の解消率	(小)	85.4%	84.9%	84.3%	81.9%	95.0%	100.0%
		(中)	93.8%	93.3%	66.6%	75.9%	98.0%	100.0%
③	自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	(小4～6)	65.4%	75.3%	82.3%	82.0%	71.4%	75.4%
		(中1～3)	67.8%	74.1%	79.5%	80.6%	73.8%	77.8%

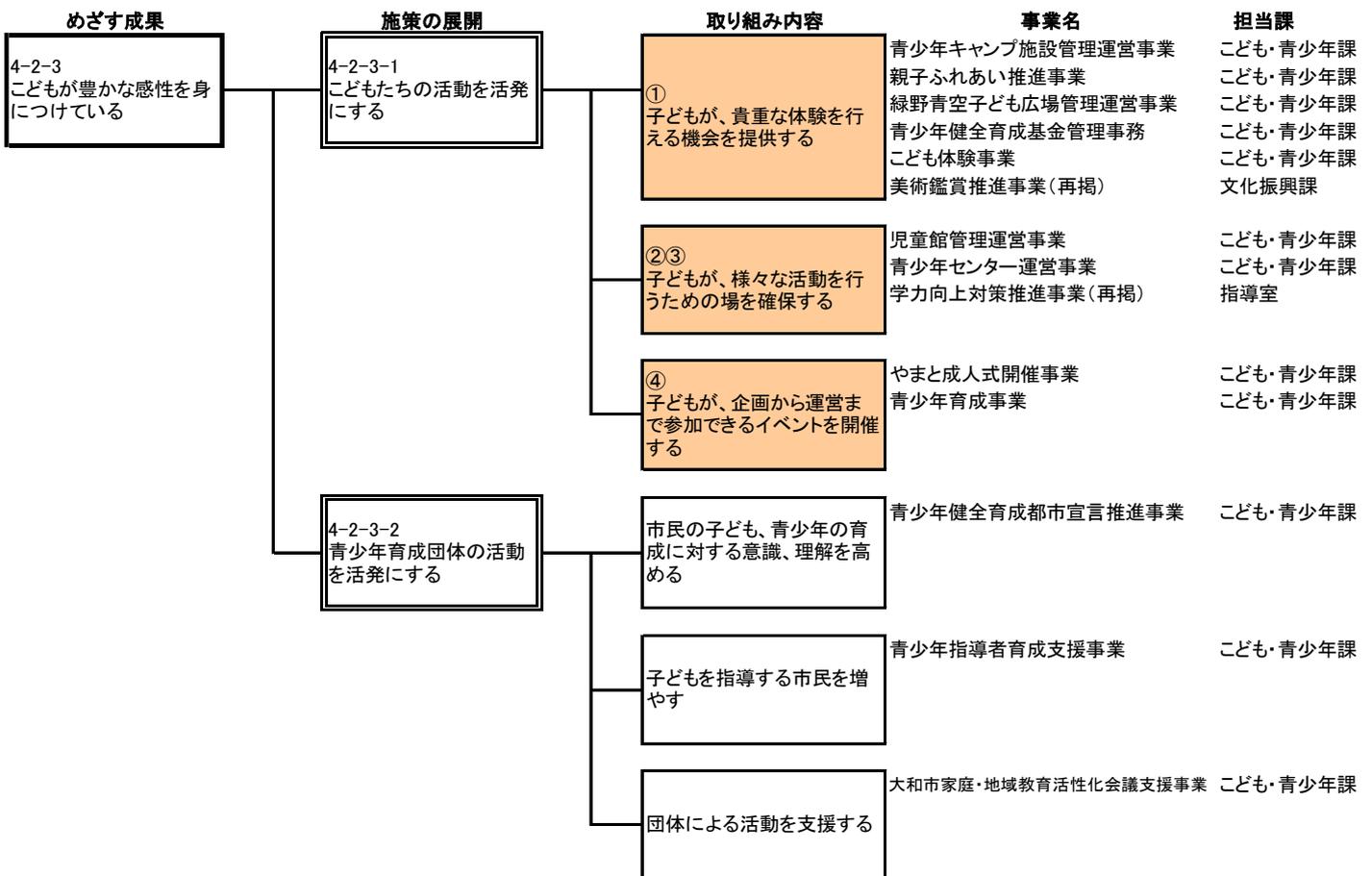
これまでの成果	<p>【いじめの撲滅、不登校児童生徒の減少を図る】</p> <p>■いじめ発見のための児童生徒対象のアンケート(全小中学校で実施)により一人ひとりの現状把握に努め、迅速に対応することができました。また、いじめ防止の具体的な実践方法を小中学校に発信して各校の取り組みに効果的に活かすことができました。さらに、全小中学校において教職員を対象とした児童・生徒指導研修会(訪問研修)を行い、いじめを生み出さない環境づくりの推進と児童生徒の小さな変化に気付く力の向上を図りました。</p> <p>■教職員が人権に関する各研修会に参加するほか、人権教育に係る研修を実施するなど、学校教育における人権教育を推進することにより教職員の人権意識を高めることができました。</p> <p>【社会に開かれた学校教育を推進する】</p> <p>■学校支援ボランティアによる支援等、地域の方々が持っている専門的な知識・技能及び経験を学校教育に取り入れるようにして学校、家庭、地域が一体となって教育活動を進めたことにより、児童生徒が幅広い体験をすることができました。</p>

成果に対する評価と課題	<p>【いじめの撲滅、不登校児童生徒の減少を図る】</p> <p>■いじめ、偏見、差別等に早い段階から対応するため、日頃から観察して、その兆候や児童生徒が発するサインを見逃さないようにするとともに、いじめ等を把握した際は、教員一人ではなく学校として組織的に対応していくことが必要であり、引き続き適切な対応方法の検討を進めます。また、新たな不登校を生み出さないよう、児童生徒にとって魅力ある学校づくり、授業づくりのための集団指導の充実と現在不登校状態にある児童生徒への個別支援体制の充実が必要です。</p> <p>■あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働する資質・能力を児童生徒に育むために学校での人権教育は一層必要となっていることから、教育を行う側の指導主事及び市立小中学校の教員が性的マイノリティ、外国人、貧困などに関わる人権を正しく理解し、意識を高める必要があります。</p> <p>【社会に開かれた学校教育を推進する】</p> <p>■学校に対する多様な立場からの支援や助言は、教育活動の活性化にも有効であることから、今後も引き続き、学校支援ボランティアからの支援や学校評議員からの意見等を活用した学校運営を行っていくことが必要です。</p>

令和4年度施策評価（一次評価）

健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4-2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む
めざす成果	4-2-1	心身ともに健康に学校生活を送ることができている
	4-2-2	多様性を尊重し他者ととともに生きるための社会性が育っている
	4-2-3	こどもが豊かな感性を身につけている

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）



◎所管部長：こども部長 樋田 竜一郎
文化スポーツ部長 大下 等
教育部長 前田 剛司

(単位：千円)

総事業費 (予算)	H31 (R1) 274, 691	R2 104, 131	R3 99, 965	R4 104, 800
--------------	----------------------	----------------	---------------	----------------

成果を計る主な指標	前期基本計画期間 (R1～R5年度)					
	計画当初値	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	中間目標値 (R3)	最終目標値 (R5)
① 美術館等で対話による美術鑑賞を行った児童が美術作品に興味を持った割合	80.6%	82.0%		96.9%	83.6%	85.6%
② 放課後子ども教室参加率	8.6%	8.6%	7.7%	6.8%	11.0%	12.0%
③ 児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)	415人	360人	103人	156人	432人	440人
④ 中高生ボランティア参加者数	83人	55人	0人	0人	130人	135人

【こどもたちの活動を活発にする】
 ■例年、ガイドスタッフを派遣して全ての市立小学校(19校)で実施している「対話による美術鑑賞授業」について、令和元年度は全校で実施できたものの、令和2年度はコロナ禍の影響により全校中止となりました。令和3年度は、コロナ禍を踏まえてソーシャルディスタンスを確保するプログラムを取り入れたことにより、15校で実施することができました。
 ■児童館について、指定管理制度により地域の実情に合わせた運営を行うことにより、様々な行事の開催等を通して、子どもたちに地域の居場所を提供できました。
 ■令和3年度は、新型コロナによる、9月の原則中止や学級閉鎖の影響により、「放課後子ども教室」の参加率が減少しました。
 ■青少年育成に関連し、中学生から青年の会員*により構成される大和ユースクラブに青少年に関わる事業を委託して自主企画・自主運営を基本とする様々な活動を実施することにより、各会員の資質を伸ばし、次世代の中心的人材の育成に寄与することができました。また、コロナ禍においても、事業内容を縮小する等の対応を行い、活動を継続しました。
 ※会員の構成：①ユースジュニア(市内在住または在学の中学生会員)、②ユースシニア(市内在住または在学の高校生会員)、③ユースボランティア(市内在住または在学、在勤の18歳以上の青年会員(高校生を除く))

【青少年育成団体の活動を活発にする】
 ■大和市青少年健全育成大会において、青少年の健全育成に寄与する活動を積極的に続けている人や善い行いをした青少年等を表彰すること*により、市民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組むことへの市民各層の意識と理解の向上を図りました。
 ※表彰の種類は以下の通りになります。
 ①青少年育成活動推進者表彰
 : 青少年活動の推進力となつて、積極的な活動を続けている方に対して、その功績に感謝の意を表し、青少年健全育成活動の発展に資する目的で表彰します。
 ②青少年善行ほう賞
 : 青少年の善い行いをほめたたえ、その善意をのばし、自信を深めることで明るい社会を建設する心を育てていくことを目的に表彰します。
 ③青少年健全育成作文集「明るくたくましく」掲載者
 : 青少年が自ら考え、広い視野で物事を考える力を身に着けることを目的として、市内小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象として募集する青少年健全育成作文について、代表作品を作文集として編集の上、作文集掲載者を表彰します。

【こどもたちの活動を活発にする】
 ■「対話による美術鑑賞授業」において、子どもたちは、自分が感じたことを自由に発言したり、友達の言うことに耳を傾けたり、答えが一つではない物事について考え続けたりすることとなるため、これは学習指導要領が示す「言語活動の充実」に効果的な授業と考えており、小学校6年間のうち、1度は受けられるよう全市立小学校で継続して実施する必要があります。
 ■児童館について、子どもたちに放課後の居場所を提供する各種事業との整合性を図りつつ、子どもたちを取り巻く状況を踏まえた児童館の役割や運営手法などの検討を続ける必要があります。また、子どもたちがより充実した時間を過ごすことができ、かつ利用者の増加につながるよう、児童館の魅力向上に向けて指定管理者と調整していく必要があります。
 ■放課後子ども教室における事業内容の充実を図るため、感染症対策の徹底、パートナーや体験的活動の講師の増員等を実施したうえで「小学校放課後寺子屋やまと」と連携していく必要があります。
 ■大和ユースクラブの活動をコロナ禍においても継続したことによりめざす成果の実現に寄与できたと考えますが、これからも安定して運営するためには会員(特に運営をサポートするユースボランティア)の確保や会員の活動参加率向上が課題です。今後は、会員の確保と会員一人ひとりの意識・資質の向上のため、事業の周知やクラブの運営方法の改善等について検討していきます。

【青少年育成団体の活動を活発にする】
 ■青少年の健全育成に対する市民の意識と理解の向上に引き続き取り組む必要があります。また、関係機関や青少年健全育成団体等との協力に関し、青少年に関する様々な課題、青少年に必要な支援等の情報共有を図るとともに、特に、青少年を取り巻く環境は日々変化し、事件や事故に巻き込まれるリスクも多くなっている状況を踏まえ、一人ひとり異なる課題に対応しながら孤立を防ぐ居場所を確保できるよう、効果的な連携や手法などについて検討する必要があります。

これまでの成果

成果に対する評価と課題

めざす成果		4-2-1		心身ともに健康に学校生活を送ることができている			
事務事業名	R1決算額		R2決算額		R3決算額		R4予算額
	法令等の義務		実施手法		財源構成		
事務事業の目的							
学校給食食育推進事業		390	31	91	497		
		有	直営	一財			
健全で豊かな人間性を育むため、学校給食における食育を推進します。							
学校給食設備整備事業		63,383	83,357	34,694	35,409		
		有	直営	一財			
学校給食施設の給食設備を整備します。							
学校給食施設大規模改修事業		26,535	357,780	83,843	59,494		
		有	直営・委託	市・一財			
学校給食施設の大規模な改修を行い、安全で良質な学校給食を提供します。							
北部学校給食共同調理場運営事業		162,089	162,722	168,747	172,849		
		有	直営・委託	一財			
北部学校給食共同調理場における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な運営管理の推進を図ります。							
中部学校給食共同調理場運営事業		180,600	178,581	181,516	192,620		
		有	直営・委託	一財			
中部学校給食共同調理場における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な運営管理の推進を図ります。							
南部学校給食共同調理場運営事業		187,309	185,501	192,067	194,993		
		有	直営・委託	一財			
南部学校給食共同調理場における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な運営管理の推進を図ります。							
単独調理校運営事業		222,873	226,897	238,479	248,882		
		有	直営・委託	一財			
単独調理校8校における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な運営管理の推進を図ります。							
交通安全啓発事業		15,039	15,880	24,338	30,717		
		一部有	直営	一財			
交通安全意識を高め、事故を抑制します。							
児童生徒安全対策事業		4,336	5,513	2,504	2,733		
		有	委託	一財			
犯罪等から子どもの安全を守り、保護者が安心して学校に通わせられるよう、安全対策を強化します。							
青少年相談・街頭補導事業		48,180	56,887	60,694	63,992		
		無	直営	一財			
青少年やその家庭が抱える課題の解消を図ります。							

主要な事務事業の内容

めざす成果		4-2-2 多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている			
主要な 事務事業 の内容	事務事業名	R1決算額 法令等の義務	R2決算額 実施手法	R3決算額 財源構成	R4予算額
	事務事業の目的				
	いじめ等対策事業	19,706 有	18,347 直営	16,275 一財	18,212
	市立小中学校におけるいじめの撲滅を目指すとともに、子どもたちが安心して学校生活が送れるような学校づくりに取り組みます。				
	不登校児童生徒援助事業	22,174 無	27,278 直営	27,750 一財	29,905
	不登校児童生徒の社会的自立に向けて支援します。				
	人権教育推進事業	271 有	249 直営	249 一財	289
	学校教育における人権教育を推進し、教職員の人権意識を高めます。				
	小学校地域教育力活用推進事業	1,032 有	1,048 直営	895 一財	1,247
	学校評議員をはじめ、地域の人材を積極的に活用し、家庭・地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。				
中学校地域教育力活用推進事業	630 有	648 直営	568 一財	806	
学校評議員をはじめ、地域の人材を積極的に活用し、家庭・地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。					

めざす成果		4-2-3 こどもが豊かな感性を身につけている			
主要な 事務事業 の内容	事務事業名	R1決算額 法令等の義務	R2決算額 実施手法	R3決算額 財源構成	R4予算額
	事務事業の目的				
	こども体験事業	1,730 無	0 直営・委託	0 県・他	2,069
	様々な体験を通し、豊かな感性やリーダーシップ等を育み、主体的に活動できる青少年を育成します。				
	美術鑑賞推進事業	6,561 一部有	3,410 委託	6,018 一財	6,157
	美術鑑賞教育の推進を図ります。				
	児童館管理運営事業	65,477 無	66,405 指定管理	66,051 一財	69,645
	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにします。				
	学力向上対策推進事業	139,120 有	206,546 直営	211,732 県・一財	233,543
	児童生徒への学習支援を行うとともに、特に小学校の若手教員の指導力を養うことで、総体的に学力の向上を図ります。				
青少年育成事業	816 無	54 直営・委託	128 一財	861	
大和ユースクラブの各種活動を通して、若者の健全育成と能力開発を図ります。					
青少年指導者育成支援事業	6,795 無	4,817 直営・委託	4,640 県・一財	7,499	
地域で青少年健全育成を進める団体の協議会活動を支援し、指導者を養成することで、青少年が活動しやすい環境を構築します。					
大和市家庭・地域教育活性化会議支援事業	1,530 無	1,095 直営	1,514 県・一財	1,706	
学校と地域・家庭の連携を強化し、家庭や地域の教育力を高めるとともに、地域の連帯感を高め、地域ぐるみの青少年健全育成活動を推進します。					

【注釈】 <法令等の義務> 法律または政省令による事業実施根拠の有無
 <実施手法> 直営、委託、指定管理から選択。同一事業内で実施手法が混在するケース有り
 <財源構成> 一財：一般財源 国：国庫補助金等 県：県費補助金等 市：市債 他：その他特定財源

※成果を計る主な指標の計算式等及び目標値の設定理由

めざす成果	成果を計る主な指標	計算式等	目標値の設定理由
4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができている	健康であるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合	小学校4～6年生及び中学生を対象としたアンケート調査で測定	児童・生徒が体を動かすことの楽しさや心地よさを感じ、健康な生活の元となる規則正しい生活の大切さについての理解が進んでいることを示す指標として、前期基本計画終了時に100%に達することを旨し、目標値を設定した。
	小学校の給食残食率（野菜）	野菜料理の残食重量／提供食重量×100	県の現状値及び目標値に近づくことができるよう、目標値を設定した。
	給食における地産地消の割合	地産の食材/使用した全食材×100	大和市の農家の生産状況（少量多品目栽培）と過去3年間の伸び率を踏まえ、年1%の増を目標とした。
	学校PSメール世帯普及率	登録世帯数／児童・生徒の全世帯数×100	非常時や緊急時に学校から各家庭に連絡が確実、迅速に取れるようにするため、概ね全ての世帯への普及を目標とした。
	子どもの交通事故の市内発生件数	中学生以下の交通事故の年間市内発生件数（1～12月）	自転車教室や啓発活動など積極的に実施し、前期基本計画の最終年度までに現状値から15%以上減少させることを旨し、目標値を設定した。
4-2-2 多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている	いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	該当不登校児童・生徒の出席数／該当児童・生徒の授業日数×100	一人ひとりの児童・生徒を大切にしたい教育の取り組みを示す指標として、2年間（2016, 2017）の実績を踏まえ、毎年1ポイント程度改善させることを旨し、目標値を設定した。
	いじめ問題の解消率	神奈川県児童生徒の問題行動等調査による	一人ひとりの児童・生徒を大切にしたい教育の取り組みを示すため、いじめ問題へ迅速に対応し、全てを解消につなげることを目標に指標を設定した。
	自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	小学校4～6年生及び中学生を対象としたアンケート調査で測定	少なくとも4分の3以上の児童・生徒が自己肯定感を持ち、心の健康が保たれている状況となることを旨し、過去の傾向を踏まえ、目標を設定した。
4-2-3 こどもが豊かな感性を身につけている	美術館等で対話による美術鑑賞を行った児童が美術作品に興味を持った割合	美術鑑賞に参加した児童を対象としたアンケート調査で測定	対話により、深い鑑賞ができることで、美術に興味を持つ児童が毎年、1ポイント増加することを目標に設定した。
	放課後子ども教室参加率	全放課後子ども教室における1日あたりの平均参加者数の合計／全児童数	子どもたちの放課後の過ごし方が多様化している中で、施策推進に合わせたより一層の定着を図りつつ、毎年度0.5%の増加を旨し、2023年度には児童の参加率12%を目標値として設定した。
	児童館の1日あたりの平均利用者数（全22館）	年間利用総数／年間平均開館日数	放課後子ども教室や放課後寺子屋やまと等の実施・拡充により、児童・生徒の放課後の過ごし方が多様化していることから、過去10年間で児童館利用者数は減少傾向にあるが、放課後の居場所の一つとして利用者数の維持を目標とし、過去5年間の平均利用者数を目標値として設定した。
	中高生ボランティア参加者数	「大和市民まつりで青少年指導員とともにブースの企画・運営を行う中高生ボランティア」、「青少年健全育成に係るイベントの企画・運営に携わる中高生ボランティア」の参加者数	より多くの中高生がボランティア活動の体験を通じて、今後の青少年健全育成を担う人材へと成長することを旨し、過去3年間（2015～2017）における平均参加者数（93人）から5割程度の増となるように目標値を設定した。